



「おいしい」と思う 自分の舌を信じて育てています。

転職を考えていたある日、職安で、「きのこ栽培」の募集
広告を見つけた長谷川裕子^{ゆうこ}さん。農業の「の」の字も知らな
かったが、「きのこは大好き。だからいいかな」と軽い気持ち
で応募し、採用された。

地域貢献を目的に、廃校を利用してつくられたから、スクール
ファーム。その設立から半年ほどのことである。

さあ、そこからが試行錯誤の日々だ。農業の経験もなく、
本やネットで調べて頭でっかちになりそうだった時に、広島
での舞茸作り研修の機会を得た。茸まみれな生活の中、
指導者の「理屈より、からだで感じなさい」の一言が、響いた。
自分の目で見て、いいと思う株を収穫し、塩コショウだけで
軽く炒めて試食した。

それは、「今までスーパーで買ったものは何だったんだろ
う!？」と驚くほどの歯ごたえと風味。感動した。それから
8年。「これだ!!」と思える舞茸を世に送り出している。

「自分がおいしいと思ったものを、もつともつと多くの人に
食べてもらいたいという欲が出てきたんです」

学校の中庭のハウスで菌床を製造し、元教室だった部屋
で培養。2〜3週間で見事な株が完成する。収穫し、
親会社の物流力を活かして、山陰道から全国に送り届けて
いる。

本気で教えてくれた恩人と、多くの子供たちを育んだ歴史
ある校舎の空気が、ずぶの素人を舞茸名人に育ててくれた。

センコースクールファーム鳥取

長谷川裕子

ゆう
う
ゆう、

ゆり

は
ま

